

The NEWS 東京農大

2024年(令和6年)12月号
第102号

東京農業大学
TOKYO UNIVERSITY OF
AGRICULTURE 1891

「総合農学」を推進する

世田谷キャンパス 大学本部
大学院・応用生物科学部
生命科学部・地域環境科学部
国際食料情報学部
厚木キャンパス
大学院・農学部
北海道オホーツクキャンパス
大学院・生物産業学部

4月・7月・12月 発行
編集 東京農業大学企画広報室
〒156-8502
東京都世田谷区桜丘 1-1-1
https://www.nodai.ac.jp/



HEADLINE

- 収穫祭・体育祭／ホームカミングデー／ニュース&トピックス 2
- 食への探究(企業とコラボ・イベント・創作メニュー) 3
- きのこ図鑑／ニュース&トピックス 3
- 農友会活動「陸上競技部(女子長距離・男子長距離) 4
- ホッケー部・サッカー部・弓道部・写真部・混声合唱部」 4

SNS随時更新中
TREND, Instagram, X, Facebook, LINE, YouTube, BLOG

総合農学を支え、学生と歩む

農大貢献賞・ベストティーチャー賞・ベストレクチャー賞
今年度新設のベストチーム賞 決まる



江口文陽学長(中央)と近藤 彰敏教育後援会長(前列左から3番目)と受賞者

令和6年度「農大貢献賞・ベストティーチャー賞・ベストレクチャー賞・ベストチーム賞表彰式」が10月15日、横井講堂で

教育水準向上を目指して

行われた。本学の名声を著しく高めることに貢献した教職員に贈られる「農大貢献賞」には、太治輝昭教授(バイオサイエンス学科)が輝いた。例年の三つの賞に加え、今

年度より職員を対象とした顕彰制度として「ベストチーム賞」が新設。大学運営に係る業務改善や業務改革に貢献した組織又はプロジェクトチームが表彰された。【住友富美】



ベストチーム賞に輝いたキャンパスサポーター導入プロジェクトチーム

「農大貢献賞」受賞者			
生命科学部 バイオサイエンス学科	太治 輝昭 教授	前列右から3人目	
「ベストティーチャー賞」受賞者			
農学部 農学科	富山 博之 助教	後列右から2人目	
応用生物科学部 栄養科学科	只石 幹 助教	後列左から1人目	
生命科学部 学部共通	小林 薫 教授	前列右から2人目	
地域環境科学部 生産環境工学科	岡澤 宏 教授	前列右から1人目	
国際食料情報学部 国際食農科学科	間合 絵里 助教	後列右から3人目	
生物産業学部 食香粧化学科	中澤 洋三 教授	前列左から2人目	
教職・学術情報課程 学術情報課程	田留 健介 准教授	前列左から1人目	
「ベストレクチャー賞」受賞者			
国際食料情報学部 食料環境経済学科	長尾 真弓 助教	後列左から2人目	
「ベストチーム賞」受賞者			
キャンパスサポーター導入プロジェクト	水田 惇文 リーダー	後列右から1人目	

学長の愛したフィールドの旅 本学初の海外協定大学との新たな実学連携を確認

海外協定校 | アメリカ合衆国シガン州立大学篇



MSU学長の急務により Thomas D. Jeitschko 副学長と

アメリカ合衆国ミシガン州立大学(MSU)は、本学における第一号の海外協定校である。1966年に協定校を締結した時の John A. Hannah 学長を称える Administration Building 前の銅像を訪れた。当時の本学学長は、第6代内藤敬学長(理事長)であった。当時の両学長はどんな思いで調印したかと考え銅像の手を握った。いささかの温かみを感じたのは私の錯覚だろうか。58年前の歴史を振り返り、銅像とともに記念撮影した。その後、現在の両学長による正式会談を15年ぶりに実施した。

MSU 学長の急務により Thomas D. Jeitschko 副学長との会談となったが、これまでの歴史を再確認するとともに新たなプロジェクトを始動する基盤について話を円滑に進めた。また、MSU は、1862年のモリル・ランドグラント法の適用を受けた最初のランドグラント大学であり、農学部が大学のシンボルマークとなっている。現在の学生数は約4.6万人で全米6位の大学だ。Matthew P. Daum 農学部長への表敬訪問でも連携に関する基本方針を話すとともに広大なキャンパスの魅力を感じた。そのキャンパス内をよく歩き、学生食堂で食し、ショップも訪ねた。大学での実学教育のシステム、学生教育におけるホスピタリティマネジメントについても多くを学んだ。

MSU には、ランドスケープ学の権威を讃える素晴らしい庭園があり、学内関係者の結婚式やパーティーも開催される。私が訪問した際には、動物科学科のパーティーイベントが開催中で、リンゴ棚の下にあったドリンクカウターで大学が製造に関与した地ビールを頂いた。キャンパスのそれぞれの学問拠点には庭園があり、その庭園でのディスカッションが新たな科学を産むといった言葉も石碑に刻まれており、東京農大の「農ある風景づくり」「フィールドサイエンスに関する計画や管理の基本的理念の学び」ともなった。国際的な交流を推進する大学におけるキャンパスやフィールド施設情報は、実学主義を掲げる本学において重要な手本となる旅であった。【文・江口文陽学長、写真・本村亮輔】

受賞インタビュー



生命科学部 バイオサイエンス学科 太治輝昭 教授に聞く

―植物の環境ストレス耐性に関する研究推進―



特別講演を視聴できます

農大貢献賞を拝受すること、とても嬉しく光栄に思います。私は本学農芸化学科を卒業後、理学研究所で研さんし、縁あってバイオサイエンス学科に入職し20年目になります。その間、一貫して植物の環境ストレス耐性に関する研究を推進してきましました。この20年間、トップジャーナルにも論文発表することができましたし、直近2年半においては9報もの論文を

を公表しました。これらは全て農大生が筆頭著者であり、世界最高レベルの教育・人材育成を実践しています。さて、私の研究ですが、砂漠化や温暖化といった環境変動に適応した作物を作りたい、そのために「力ギとなる遺伝子

の多様性を紐解くことができれば、植物が気候変動に適応する力ギ遺伝子の発見に至ると確信しています。「稲のことは稲に聞け」に引き、「耐性のことは耐性植物に聞け」です。世界に先駆けて「水不足や高温に強い植物はなぜ強い?」という疑問に答えることができた。今後ともトップレベルの研究成果を東京農大から発信し続け、学生教育に努力し続けます。



学生食堂での短期留学生への激励

●キャンパス内の庭園

おいしいまち 網走のふるさと納税制度

選べる使い道 2024年4月～
網走市ふるさと納税の寄附金の使い道として「北海道オホーツクキャンパスの充実」が追加

選べる返礼品 2024年7月～
「北海道オホーツクキャンパスの授業料等に利用可能なクーポン券」が追加
※生物産業学部 に在籍している学生対象

2024年10月～
「北海道オホーツクキャンパスの学食で利用可能な電子マネー」が新設



学生主体の収穫祭・体育祭 沸く



10月13、14日の2日間、北海道オホーツクキャンパスで催された「第36回オホーツク収穫祭」を皮切りに、11月1〜3日に世田谷キャンパスで「創立133年東京農業大学収穫祭」、11月2、3日に厚木キャンパスで「第25回収穫祭」が開催された。

**収穫祭来場者数
3キャンパス合計
のべ9万人！**

体育祭

- ④ 厚木・世田谷キャンパス / バイオサイエンス学科、大魂くんと一緒に優勝記念ショット
⑤ 北海道オホーツクキャンパス / キャスター付き木製フロッカーで競ったフロアカーリング
⑥ 厚木・世田谷キャンパス / 学科ごと組まれた19チームによる華やかな応援合戦

収穫祭

- ① 北海道オホーツクキャンパス / YOSAKOIソーラン部「農天授」野外ステージでの演舞
② 厚木キャンパス / 農学部4学科の学生がそれぞれ手造りした神輿の練り歩き
③ 世田谷キャンパス / 東京農大こだわりの商品が並ぶ模擬即売店会場の一角

収穫祭の先陣を切るのはオホーツク。豊かなフィールドでの活動成果を紹介した文化芸術展や地元の素材にこだわった模擬即売店、市民と一体となったステージ企画とオホーツクマルシェ。閉会式後にはコロナ禍で中止していた花火も復活した。オホーツク体育祭は、9月27日に実施。学科、学年の垣根を越え、教職員も一緒に、フロアカーリングで豪華賞品の獲得を目指した。

世田谷の収穫祭を際立たせる正門装飾は、今年度学科創立100周年を迎えた造園科学科が制作。水の流れる装飾は絶好の撮影場所となった。54団体の文化芸術展や72店舗にも及ぶ模擬即売店で来場者は東京農大の魅力を感じた。

厚木の収穫祭は多様な野外企画が魅力だ。野菜の無料配布や圃場でのサツマイモ、大根の収穫体験では受付を待つ長い列ができた。模擬店では農大無角×和牛と和牛の食べ比べも好評だった。恒例の神輿の練り歩きで会場の熱気は最高潮に達した。

厚木、世田谷の収穫祭を締めくくる収穫祭体育祭。11月4日、青空の下、世田谷キャンパスグラウンドで開催された体育祭では、学科対抗による玉入れ、綱引きなど6種目で競い合い、激戦の末、バイオサイエンス学科が総合優勝に輝いた。

学生にとって最大のイベントといえる収穫祭・体育祭は笑顔、汗、涙が溢れる忘れられぬ思い出となり、来年に引き継がれていく。

【住友富美】

ホームカミングデー 東京農大ファミリー集う

世田谷キャンパスで9月28日、「東京農業大学ホームカミングデー2024」を開催した。当日は一般の方にもキャンパスを開放し、校友をはじめ7,000人以上の方が来場した。



対談冒頭で乾杯する高木社長(左)と穂坂名誉教授



師弟ならではのトークを展開した小山選手(左)と穂坂名誉教授

※QRコードから対談映像を視聴できます

百周年記念講堂にて開催した記念式典は、最初に江口文陽学長、萬歳章会長が挨拶。親子三代表彰では9組の校友の皆さまが表彰され、最後には名物、「大根踊り(青山ほとり)」が披露された。

また特別対談を実施し、穂坂名誉教授と幻の日本酒「十四代」で知られる高木酒造株式会社十五代蔵元・高木辰五郎さん、パリ五輪男子マラソン日本代表・小山直城選手が登場した。

高木社長との対談では、名酒「十四代」の誕生

三代表彰9組

秘話や幻と言われるようになるまでの経緯、そして学生時代に穂坂先生と毎晩のように盃を酌み交わしお酒について熱く語り合っていたという話にまで及んだ。小山選手との対談ではパリ五輪の振り返りをはじめ、運動部に所属する学生にしては珍しいとされる醸造科学科に入学した理由や、研究室と練習の両立に苦労した学生時代を回想した。対談冒頭では2人の教子とそれぞれお水の入ったおちょこで乾杯する場面もあり、久々の再会に懐かしみながら、ここでしか語られることのない貴重なエピソードがたくさん披露された。

式典の他にも「農大マルシェ」や「幹事さん集まれ」等のイベントが催され、一般にも公開された。卒業生だけでなく近隣にお住まいの方など多くの方に楽しいひと時を過ごしていただけたのではないだろうか。【石塚真維】



親子三代表彰者及び特別対談登壇者による記念撮影

News&Topics

ニュース&トピックス

食品安全健康学科 開設10周年

4月に開設10周年を迎えた応用生物科学部食品安全健康学科は、9月28日に榎本ホールで記念式典を開催。江口文陽理事長・学長をはじめ、ご列席の大澤貴寿前理事長、高野克己前学長、萬歳章校友会長、近藤彰敏教育後援会長、また学科卒業生や関係者と共に10周年を祝福した。基調講演には五十君静信食品安全研究センター長が登壇し、「食の安全確保は人類の永遠の課題」をテーマに語った。美谷島克宏学長は「式典を節目として、食の安全・安心、食の機能と健康に対する社会的なニーズに適した人材の輩出や研究成果の発信に真摯に取り組んでいきたい」と語った。

地域環境科学部が東京都公園協会と連携協定

地域環境科学部と公益財団法人東京都公園協会が、10月21日、包括連携協定を締結。大林宏也学部長と矢岡俊樹理事長が調印した。本協定は東京都の「みどり」について相互に交流を深めて連携を図ることにより、都市緑化、公園緑地、庭園、河川及び水辺環境、自然環境、都市農地等に関する教育、研究、技術、文化の発展と、市民生活の質の向上に資することを目的としている。

湖上で探究学習、オホーツクから持続可能な漁業の在り方を考える

北海道オホーツクキャンパスが進める高大連携教育プログラム「オホーツク学」。今年度は「サケになって地域を見よう!!」をテーマに掲げ、中学生・高校生がサケ科魚類の生態や解剖学的知見、更には加工や経営学的視点まで幅広く学んだ。また、網走湖女満別湖畔でサケの生息水域の視察を通じて漁業と自らの生活の繋がりを主体的に学び、課題解決の中で本学部の学びにも触れることで大学生との交流を深めた。【下井岳(北方圏農学科教授)】

オホーツク学紹介動画 (YouTube)



イベント「食」と「農」に関する企画を定期的に

「食と農」の博物館 企画展「南極飯！」開催中



南極大陸 セールロンダーネ山地での生物調査



食品サンプルの展示

極寒の最果ての地「南極大陸」。今も、この瞬間も南極観測隊によって様々な研究観測が行われている。真夏でも気温が0℃を下回るこの世界で、隊員が楽しみにしているもの、それは「あたたかい食事」である。どんなに厳しくても、あたたかい食事があるから頑張れる。本企画展は「食が科学を支える」をテーマにしている。

展示は、オーロラの写真やペンギンのはく製はもちろん、昭和基地でふるまわれている食事の再現展示もある。また、第1次隊が食べていた南極に生息している鳥の肉で作られた焼き鳥のレプリカや、民間企業が独自に開発した食品も展示している。極限環境下だからこそ身に染みる食のありがたさ。ぜひ、観覧して感じていただきたい。

【田留健介(教職・学術情報課程 准教授)】

「産学官・地域連携HUB」シンポジウム 豊かな食文化の継承と創造 ～ガストロノミー in Japan～



トークセッションの登壇者たち

日本の豊かな食文化と東京農大ガストロノミーの魅力を発信

11月14日に国際センター榎本ホールにおいて、ガストロノミーをテーマとした東京農業大学産学官・地域連携HUBシンポジウムが開催された。第一部では、国内のガストロノミーを牽引するフロントランナーとして、鶴岡市から三浦裕美氏、霧島ガストロノミー推進協議会から山元紀子氏、株式会社菊の井から堀知佐子氏をお招きし、それぞれの取組を発信した。第二部では、江口学長による講演「東京農大ガストロノミーの現況と今後」に続いて、学内3キャンパスで展開するガストロノミーの活動を動画で紹介した。第一部の登壇者3名と江口学長、産学官・地域連携センターの野口敬夫副センター長を交えたトークセッションでは、ガストロノミーの課題と展望について議論した。今後も東京農大ガストロノミーの活動を発展させ、教育・研究の深化と学生の成長に結び付けていきたい。

【平山博樹(産学官・地域連携センター長)】

東京農大



食への探究

本学は「食」と「農」の教育・研究を推進。その分野の強みを生かし、人材育成や研究成果の社会還元に挑戦し続けている。



各学科・研究室で取り組む企画商品

学科	研究室(団体名)	担当教員	商品名	コラボ企業・団体
デザイン	食機能科学研究室	谷口 亜樹子 教授	鎌倉野菜のカレー	井上蒲鉾店
微生物	複合微生物学研究室	内野 昌孝 教授	発酵ほろに(日本版ラペソー)	隠れ茶を守る会
ビジネス	経営管理研究室(抹茶商品企画)	井形雅代 准教授	至高の抹茶ほか	KAWANE 抹茶(株)
食農	食農文化・政策研究室	大久保 研治 教授	会津コシヒカリと大蔵大根のおだしでほっとごはん	(有) 猪俣徳一商店
			米田輪 - My Darling -	
			Cmel - コメル -	
			馬タンの味噌粕漬	竹原肉店

2024年11月実施アンケートにより

厚木キャンパスで「第4回創作メニューコンテスト」が行われた。今回のコンセプトは、「魚介使用の、うどん・そば・パスタメニュー」(けやき企画)。学生から多数応募があった中「たらこクリームうどん」が選ばれ、期間限定でレストランけやきにおいて提供された。

【石塚真維】

9月30日～10月4日
期間限定発売



厚木キャンパス
創作メニューコンテスト
「たらこクリームうどん」

同好会「TFTxnoda」と森永製菓株式会社が収穫祭でコラボレーションし、「甘酒トマトソースのニヨッキ」を販売した。森永製菓の「甘酒」を活用し、学生たちがレシピを考案。試作を重ね、収穫祭での提供に至った。3日間で合計2443食の売り上げを達成し、売り上げの一部は開発途上国に寄付される。

11月1日～11月3日
世田谷キャンパス 収穫祭で販売



創作メニュー
TFTxnoda
森永製菓とコラボ
「甘酒トマトソースのニヨッキ」



春から秋にかけて日本各地の広葉樹林の森などに発生し、食べると「ポリポリ」と食感が良く美味しいキノコ「ナラタケ」は、北海道では「ポリポリ」と呼ばれている。キノコ狩りの対象として人気のキノコなのだが、森にとっては厄介者でもある。このキノコに寄生された樹木は「ナラタケ病」になって、枯れてしまうこともあるという。SDGsの観点からは、森の豊かさを守るうえで考えさせられる課題のひとつでもある。

【文・寺田守一、写真・江口文陽(学長)】



ナラタケ(ポリポリ)

榎茸 学名: Armillaria mellea subsp. nipponica

食感がよい美味しいキノコは森にとっては厄介者！

ANA総合研究所との連携協定

12月11日、株式会社ANA総合研究所と東京農大との連携に関する基本協定書を締結。2021年7月のPeach Aviation株式会社との連携協定以降、全日本空輸株式会社からの人事出向、ANAあきんど株式会社との共催シンポジウムなど、ANAグループとの連携が活発に続く中での協定締結となる。本協定に際して、ANA総合研究所の森健明副社長が、国際食農商品戦略論(世田谷・国際食農科学科)と経営組織論(オホーツク・自然資源経営学)で特別講師を務めた。【寺合広介】

第3回SDGsコンテスト受賞者決定

12月14日、世田谷キャンパス内で開催の最終審査で、最優秀賞、優秀賞、特別賞が決定。応募数は前回を下回る240だった。

詳細は



農友会活動

3秒40差で出場圏内に滑り込み
富士山女子駅伝出場決定

陸上競技部

女子長距離ブロック



弘進ゴムアスリートパーク仙台で応援団と記念撮影

10月27日に宮城県仙台市で第42回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(杜の都駅伝)が行われ、陸上競技部女子長距離ブロックが3年連続30回目の出場を果たした。

予選会を終えた小指徹監督からコメントが届いた。予選会を終えた小指徹監督からコメントが届いた。



粘り強い走りを見せる高島侑翔主将

箱根に1秒届かず

皆様方の熱いご声援を頂きありがとうございます。結果は総合11位。10位までに与えられる箱根駅伝本選出場は、僅か1秒届かず2年連続71回目の出場は叶いませんでした。当日の気温は27度、湿度70%を超える高温多湿の苛酷な気象コンディションになり選手には、「設定タイムを落とし集団を崩さ

第101回
東京箱根間往復大学駅伝競走
予選会11位、本選出場逃す

陸上競技部

男子長距離ブロック

記録と記憶に残る力作で
フォトマッチ東日本3位入賞

写真部



作品(左)と入賞を喜ぶ出場メンバー(右)

後半に勝負をかけるように」と指示を出しましたが、個々がそれを忠実に守り長く走りきったと思います。絶対的エース抜きでの1秒差の敗退は、悔しさもありますが次年度に向けての収穫は十分に得られました。農大関係者、ファンの皆様方の期待にこたえるべく次回には必ず出場します。

第73回
全日本学生ホッケー選手権大会
3位、7年ぶりのベスト4入り

ホッケー部 男子



3位入賞が決まり駆け寄る選手

学生日本一を決める全日本学生ホッケー選手権大会が10月31日〜11月4日まで大井ホッケー競技場で開催された。準決勝に進むも立命館大(前年度優勝)に惜敗。駿河台大との3位決定戦で

大会では本学より、優秀選手で男子3名が選出された。【監督 李永晃】

HallenChor (ハールンコール)
の歌唱が小田急グループ新企業
CMに起用

混声合唱部



歌唱協力した HallenChor メンバー

も」という小田急グループのコポレートメッセージを映像化した作品中に流れる楽曲(いきものがかりの「彩り」)に合唱で出演した。録音当日は、緊張感に包まれながらも日頃の練習で鍛えた歌声で、見事に歌い上げた。本CMは、小田急グループのHPやテレビ、小田急線車内で公開されている。【部長 松崎広志】

混声合唱部 HallenChor が、「思う 誰かを今日

農友会写真部を含む混成チームが、9月15日に

関内ホールで開催された「フォトマッチインターカレッジ東日本大会」で3位入賞した。本大会は大学写真部の全国大会と位置づけられている。今大会は、同部から北島義也(食農4年)と小川起八(造園1年)が参加。山田宗一郎(経済2年)も加わり、強豪大学との激戦を経て3位決定戦に進み、見事勝利を収めた。【副部長 和田健嗣】

サッカー部



選手たちの喜びが弾けた

7年ぶり 2部リーグ昇格



ホーム最終戦後は地域の子供たちと交流

を残すことができ、7年ぶりに同リーグ2部への昇格を果たした。今シーズンはリーグ序盤から良い形でスタートダッシュをすることができ、シーズンを通して常に上位でリーグ戦を戦うことができた。4月から11月に渡る長いシーズンを通じてご声援を頂きました皆様にご感謝を申し上げます。【部長 岡澤宏】

【部長 岡澤宏】

弓道部 女子



1部昇格を喜ぶ女子部員

弓道部女子部は、去る11月3日に行われた東京都学生弓道連盟リーグ入替戦において、法政大、立教大を下し、見事1部への昇格を

13年ぶり 1部復帰



“全員弓道”で勝利を誓う

果たした。女子部は全関東学生弓道選手権大会4位、全日本学生弓道選手権大会(インカレ)8位など、今シーズンの各種大会で好成績を収めており、リーグ戦においてもここ一番の勝負強さを発揮し、昇格を勝ち取った。来シーズンは53校で構成される東京都学生弓道連盟女子部の最高位リーグでの戦いに挑むことになる。【部長 井形雅代】

【部長 井形雅代】

リーグ入替戦や
地域貢献活動、活発に

農友会各団体は、所属リーグや連盟では、勝利・優勝・昇格を目標に励んでいる。本紙記事以外にも今年度は硬式野球部、ラグビー部、バスケットボール部、ラクロス部など多くの競技でリーグ、昇降格の間で懸命にプレーしている。硬式野球部は今年春季リーグで31年ぶりに東都大学1部復帰を果たしたが、秋季リーグでは、再び2部降格となり、接戦が続く。

一方で、“地域に愛されるチーム”づくりの意識も高まり、各団体の地域貢献活動が活発になっている。野球・陸上・サッカー各部主将にインタビューした際、共通した言葉は「仲間や環境への感謝」の想いであつた。東京農大生のさらなる活躍と成長に期待である。【寺谷広介】



経堂コルティでのラグビー教室では子供たちと学生の笑顔が溢れた